

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371000973		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス草平		
所在地	愛知県名古屋市中川区草平町二丁目4番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成22年11月4日	評価確定日	平成22年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは閑静な住宅地に位置している。近所の住民との挨拶を通じ「良い近所付き合い」をさせて頂いている。職員は利用者様に対して人生の先輩としての尊敬の気持ちを持ちながらも「家族」の様に接している。利用者様同士の関係もとても良好で、笑い声や笑顔が絶えず、支えあう「友達」の様な関係を築いている。また、利用者様に少しでも多く外の空気を吸って頂くこと、1日2回の散歩に加えて、1週間に1回は車でいろいろな方面・分野の施設に見学・散策に行っている。ホームの壁にはその時の写真が数多く掲示しており、利用者様同士が思い出話に花を咲かせている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建てのホームは公園や畑がある閑静な住宅街に位置している。居間や居室の大小の窓からは、暖かな太陽の光を取り込み、季節の野菜や果物が目に入る明るい環境の中で暮らしが営まれている。笑顔があり健康で笑いの絶えない暮らしが地域の中で継続できるよう安全で安心の持てる支援に取り組んでいる。色々な思いや人生を経験された入居者が笑顔のある共同生活を送るには何を大切にしたらよいか、職員一同が理念を共有して実践している。今「何が食べたいか」「何をしたいか」「何処へいきたいか」等の思いを毎日の生活の中で献立、風呂、外出等に活かしている。毎年恒例の一泊旅行、地域の行事への参加、毎週金曜日の外出(外食等)、午前・午後の散歩にも入居者の意向を取り入れている。地域の方の介護相談を受けているが、他に事業者が地域における役割を見出し、災害時の協力体制確保に努力したいと取り組んでおり、目標、課題を持って支援する側・される側の逆転をしながら「笑顔で友とふれあう我が家」が展開されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で挨拶をかわし、人々と仲良くし、私達の役割を持ち、地域の一員とし、互いに支えあい、安心して暮らせるホームとする。」を理念とし、玄関に掲示すると共に、月1回のカンファレンスを始める前に全員で唱和し実践に努めている。	地域密着型について職員間で話し合い「自分にきびしく相手にやさしく 友とふれあい 家庭的な温もりの中で 笑顔に満ちたゆとりとやすらぎのある「我が家」のようなホームとする」を理念とし誰にでも目に付く玄関に掲げている。唱和する機会や職員一人ひとりが日々の業務と照らし合わせたり反省し立ち返ることで実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と散歩に行く際、公園のゴミ拾いをしたり防犯パトロールのベストを着用している。また、地域の行事(お祭り・敬老会等)に積極的に参加している。最近では地域の方から野菜等を頂く事が増えた。	朝と午後の散歩時に笑顔で挨拶を交わしたり、町内の祭りや敬老会等に参加して顔を覚えてもらっている。野菜のお裾分けがあったり、近所の子も達がホームの玄関先で遊ぶこともあり、当たり前の間柄を実感できる。秋祭りの案内をしたり、中学生の福祉体験学習の受け入れ予定があり、地域への貢献も増やしていきたいと取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護なんでも相談所」として、地域貢献に努めている。現時点では地域の中で理想的な役割を果たしているとは言えないが、今後に向けて精進していきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員の方に地域の情報を頂いたり、またホームからの情報を伝えたり、課題・問題点などについて意見交換を行っている。	会議は概ね2カ月に1回開催している。参加は地域代表の民生福祉会長(町内会長)、知見者は訪問マッサージの先生や他の事業所ホーム長、入居者、家族会の一員、ホーム長、職員である。地域包括センターの職員参加が次回予定されている。サービス向上を目差してホームの状況や行事報告、参加者から意見や地域情報を頂いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出等の為に役所に行った際に、利用者様の情報を伝えると共に、情報を頂く様にしている。また、窓口で地域の行事等の情報も頂けるのでこまめに行くようにしている。	担当窓口へ書類提出や情報収集に出かけホームの実情を積極的に伝えている。区役所主催の作品展には入居者が趣味の写真を作品として出展、入居者皆で見学に出かけた事もある。協力関係を築く機会と捉え同業者に同行して市窓口へ出かけ挨拶をしたり少しの時間でも大切にに取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し閲覧しやすい場所に設置している。玄関の常時開錠については、エスケープの可能性が高い利用者様が数名おられるため達成出来ていない。	風鈴や鈴等の鳴り物を使用して自然な生活環境を工夫して拘束の排除に努めている。玄関の施錠はやむを得ない時もあるが出かけたい気持ちや訴えに耳を傾け、スピーチロックをしない言葉かけや対応をしている。本人の思いを大切に安全を考慮して優先すべき事をケアに活かすよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、後日内部で報告会を行っている。報告会に参加できなかった職員向けに資料を閲覧出来る様にしている。また、マニュアルを作成し閲覧しやすい場所に設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者様が利用されている。他の利用者様についても必要性が高まったら検討し、必要な支援をしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は、出来る限り利用者様・家族様の不安や疑問が解消するようなアプローチに努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とのコミュニケーションを深め、ご家族様とも情報に交換を密にし、ご意見を頂きやすい雰囲気作りに努めている。また、玄関に意見箱を設置し、ご家族様や外部の方から意見を頂いている。	玄関に意見箱を設置しており、体験学習の生徒から意見が入る事がある。本人や家族からは直接要望や意見を頂いている。「自分の作品を皆に見て欲しい」との要望に職員間で話し合い、法人の協力を得てデイサービスで作品の展示が実現している。運営推進会議や家族アンケートの意見を真摯に受け止め、改善の取り組みが見られた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や処遇会議・人事考課を通じて、現場の意見・提案が代表者や管理者に伝わり、反映される様努めている。	職員は入居者の声をホーム長にあげ運営に反映させている。また、勤務や研修希望等の思いを表に出しやすい関係が普段からできている。職員は20歳代から幅広く、会議でいろんな意見が出て勉強になったり、考える機会を持っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻りにホームを訪れ、職員や利用者様と会話する時間を作っている。また、職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境作りに努めている。年2回程、労いの会を開催して下さり職員同士の交流の場になっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外において、研修の機会を提供している。また、ホームにおいて研修の報告会を行い、情報の共有に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、事業者会議とうを通じて同業者と交流する機会をもっている。職員については今後その様な機会が増える様に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が安心して過ごせる様、訴えには出来る限り傾聴している。また、普段のコミュニケーションの中からニーズを認識できる様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の段階で出来るだけ家族様の話に耳を傾けて、納得して契約して頂ける様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様が求めているニーズを見極め、必要に応じて他のサービス提供を含め、柔軟な対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の方法・味付け等、色々な分野において利用者様から沢山教わっており、互いに支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族様が今まで築かれた絆を大切に、契約後もご本人様・ご家族様・職員が支え合う関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事(レク)の行先を、利用者様に意見を伺って決めるなどの工夫をしている。今後、馴染みのある方に来て頂ける様努めていきたい。	訪問者は歓迎する考えを持っている。家族が訪れやすい雰囲気づくり、笑顔で挨拶ができる基本を心がけている。友人、知人の訪問は、限られた方であるが馴染みの喫茶店、公園、病院、美容院等は近くを通るなどで対応したり、家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり相談にのったり、皆様で楽しく過ごせる時間や気の合う方同士の関係が築けるよう、職員が調整役となって支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や問い合わせがあれば、出来る限り力になれる様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、言葉や表情を観察し、それとなく確認するよう努めている。意思疎通が困難な方については、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。</p>	<p>希望や思いを出しやすい声かけや具体例を提示して選択できる支援をしている。夜間や入浴時に思いが言葉に出る事も多く、職員は情報共有して検討したり、家族へ相談、協力を得ている。「電話をかけたい」等の希望に今後の対応を本人本位に検討中である。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>資料(バックグラウンド等)から基本的な情報を収集し、足りない部分は利用者様との日常会話・昔話から色々教わっている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個別記録や職員間での情報共有、日常のバイタルチェックやコミュニケーションを通じ把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当者を決め日々状態を観察し、他の職員やご家族様からのアイデアや意見を参考にしながら取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の希望を踏まえ介護計画を立てている。申し送りノートや情報交換を活用して意見やアイデアを出している。計画作成担当者と担当職員が中心となり、毎月1回職員間で話し合うことや不定期にも密に情報交換をして介護計画に反映できるチームを確立している。見直しの時期も本人や家族に声をかけ意見や要望を聴いてして作成している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を参考に職員間で情報を交換し、必要とあらば介護計画の見直しを検討し活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>協力医療機関以外の通院は基本的にはご家族様をお願いしているが、状況によって職員が臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>落語研究家・大正琴・フラダンス等ボランティアの方に来ていただいている。また2ヶ月に1回訪問理容に来ていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関はあるが、希望があればかかりつけ医を主治医としている。</p>	<p>協力医の他、希望するかかりつけ医を主治医にしている。週1回協力医の往診があり全員が受診している。眼科、歯科の検診も年に1回受けており、治療が必要な場合は職員が対応している。異常を感じたら早めの対応をし、家族への連絡、職員間の連携も密に行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回訪問看護師に往診に来て頂いており、利用者様の状況を伝え、相談し適切なアドバイスを頂いている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には利用者様の情報提供を行い、退院時には医療機関・ご家族様から詳しい情報を頂き、退院後ホームに復帰し易くなる様対応している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人・家族様の希望を確認し、出来るだけ希望にそったターミナルケアが提供できる様支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化における指針を説明し同意を得ている。過去に看取りをした経験もあり、職員間で話し合い、互いに納得できるよう支援している。また、できる限り本人や家族の希望に沿った最期を迎えられるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変者発見時マニュアルを閲覧できる様にしてあるが、今後は実践力を身に付けられる様訓練等に努めていきたい。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を受けた職員を中心に実技もふまえた話し合いを行い、年2回の災害時を想定した訓練を行っている。地域の消防署から避難誘導などのアドバイスを頂いたりしている。</p>	<p>避難訓練は年2回、入居者と共に行っており、昼間、夜間それぞれを想定した訓練を実施している。消防署の講習を受講した職員を中心に消火器の扱い方の練習も行っている。非常用食品は50食分準備されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者様の性格だけでなく、表情や行動から言葉かけのタイミングや言葉を選び敬意をもって対応をしている。	日常生活の中で、職員は入居者に対する言葉の内容、接する態度が馴れ合いにならないように心がけている。トイレ介助、入浴介助の際には、入居者が不快に感じたり、羞恥心の無いよう職員は互いに注意し合い徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮されてしまう方もいるが、外食行事などにおいて可能な限りメニューの中から自己決定したものを食して頂いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要・強制することなく、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の洋服を着られたり、お化粧品やパーマ・カラー等希望があれば対応出来る様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りにて提供。味付け・盛り付け・配膳・洗い物等一連の流れを関わって頂く事で、より食べる楽しみを感じて頂ける様努めている。	献立は職員が交代で1か月分立てている。年2回、中川保健所の栄養士に見てもらい、食材の選択等のアドバイスをもらっている。調理や盛り付け、片付け等は入居者と共に行い、食事も職員と入居者は一緒にテーブルを囲み、楽しい雰囲気づくりができています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の方に献立を見ていただいてアドバイスを頂いている。また、好き嫌いがあるものなど、調理を工夫するなどして「食べない」を回避する様努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部の利用者様を除いて口腔ケアは毎食後行っている。義歯の手入れ(消毒)も毎日行っている。また、年に一度協力歯科に検診に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄介助を行っている。夜間失禁が多い方など、定期的なトイレへの声かけ誘導を行うことで排泄の習慣を付けれる様努めている。	ケアチェック表をもとに一人ひとりの状態を把握し、定期的な声かけをするほか、夜間など、失禁の多い人には個別に対応するなど、個々に合わせた排泄介助を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	保健所の管理栄養士の方に献立についてアドバイスを頂いたり、散歩やレクリエーションを工夫して身体を動かして頂き、便秘の予防に努めている。また必要に応じて主治医に下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用している。入浴のタイミングについては一人ひとりの希望を完全に優先するのは難しいが、その中で出来るだけ希望された時間に入って頂いている。	一人ひとりの希望に合わせて入浴してもらっており、ほとんどの人が2日に1回の入浴している。入浴剤を使用したり、寒い時期には重曹を入れ温まるようにと計画中であり、楽しめる雰囲気をつくっている。月に1度、体重測定を行い健康管理を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠前薬は20:00頃に服薬して頂いているが、布団に入られる時間は利用者様によって異なる。夜間は1時間に1回巡視している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れ・誤薬がない様、投薬や投薬準備は2人の職員で確認しながら行っている。処方箋は常に閲覧出来る様になっている。内服薬に変更があった場合に利用者様にどの様な変化が起きるか細かくチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮出来る様、出来ることはお願いしている。お酒の好きな方にはノンアルコールビールを提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週金曜日が外出行事の日になっており、車で色々な所に出掛けている。お墓参り・故郷等、家族様が足を運んで下さっている。	毎日午前、午後に散歩をしている。毎週金曜日が外出の日になっており、全員参加で色々な場所に車で出かけている。名前、電話番号、ホームの連絡先を記入した名札を提げて安全な外出支援をしている。年に1回程度、一泊旅行も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭については、管理者が管理している。利用者様から買いたい物などの訴えがあったら、一緒に買いに行ったりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話については、先方様にご迷惑になる可能性があるため積極的な支援は出来ていないが、今後相手方の同意が得られれば支援していきたい。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関が暗いので花を飾ったり、物置を置いたりと明るくなる様な雰囲気作りに努めている。折り紙などで季節の花を作ったり、習字をしてその作品を掲示して、楽しめる様にしている。掃除は毎日行い、清潔感を保てる様努めている。</p>	<p>入居者は自然と居間に集まりテレビを観たり会話を楽しんでいる。折り紙、習字などの作品が飾られ、日々楽しんでいる様子がうかがえる。居間から続くベランダは、日が良く当たり洗濯物が干されている。入居者にとって生活感のある居心地のよい場所になっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには応接セットがあり、気の合った方達が毎日笑いながら過ごしている。居室が個室なので、独りになれる時間も確保出来ている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を持ち込まれる方もいれば、新品を持ち込まれる方もいらっしゃるが、基本的にはお好きなものを使用している。動線を妨げない配置にしてあり、安全に過ごして頂ける様努めている。</p>	<p>各居室の入口には、名前と顔写真が表札にかけてあり、本人が迷わないように工夫してある。室内は自宅に居た時と変わらない雰囲気にするよう家具の配置等に留意している。家族の写真、自分で作った作品などが個性的に飾られていた。布団干しも定期的に行われ清潔感がある。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの案内板であったり、浴室の看板、居室入口には写真表札があり、利用者様が混乱しない様に努めている。今日の日付が分かる様、手作りのカレンダーも設置している。</p>		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム フレンズハウス草平

作成日:平成22年12月17日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常用の備品の中に毛布等もあった方が良い。又、災害時の定期薬・義歯等の必要性を検討して欲しい。	災害が起きても、冷静に避難誘導し、必要な時に必要な備蓄品を持ち出せる様に体制を整える。	毛布については、会社や同法人のGHの管理者と相談し、法人として対応していく。薬については、主治医と相談し、利用者一人一人の内服等の重要性について、意見を頂きながら対応する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。